

第2回水稲病害虫発生状況の調査結果について

兵庫県農業共済組合佐用事務所
JA兵庫西佐用営農生活センター
光都農業改良普及センター

令和5年7月4日

1 気象と水稲の生育状況

6月中旬以降の気温は平年並で推移しました。降水量は一時的な降雨はあったものの平年以下となりました。日照時間は6月中旬は平年以上でしたが、下旬は平年以下となりました。

2 調査結果（調査日7月4日）

病害虫名	調査結果の概要
いもち病	一部のほ場で発生がありました。
紋枯病	調査ほ場では、発生が確認されませんでした。
縞葉枯病	調査ほ場では、発生が確認されませんでした。
ウンカ類	一部のほ場で発生がありました。
ツマグロヨコバイ	調査ほ場では、発生が確認されませんでした。
カメムシ類	調査ほ場では、発生が確認されませんでした。

3 これからの管理について

① ウンカ類

6月30日に兵庫県病害虫防除所が発表したヒメトビウカカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率が、病気の多発目安となる5%を超える5.9%となりました。今後の発生状況に十分注意し、基幹防除として極早生品種では出穂前にビームトレモンセレン粉剤DLを10aあたり4kg散布、早中生品種は生育期にアプロードロムダンモンカットF粉剤DLを10aあたり4kg散布しましょう。

また、イネ縞葉枯病発病株は保毒虫の増加や出穂期の発病に繋がるため、できる限り早めに抜き取ってください。

② 葉いもち

6月16日がいもち病発生の感染好適日で、ほ場においていもち病の発生が一部で見られました。常発地ではよくほ場を見回り、葉いもちが発生しているほ場は早急に防除しましょう。また、穂いもち対策として出穂前には必ず予防しましょう。

③ カメムシ類

カメムシ対策としては、「カメムシのすみか＝イネ科雑草の穂」を作らないことが大切です。出穂の2週間前までに畦畔等の草刈りを実施し、本田のノビエは早めに抜き取りましょう。

④ 栽培管理

中干し後は、稲の根を健全に保つために、水管理は間断灌水で行い、極端に干すことや水の溜めっぱなしは控えて下さい。